

第 12 回生活科学系コンソーシアム総会議事録

日時:2019 年 5 月 14 日(火)17:00~18:00

場所:日本学術会議 6 階 6-C(1)(2)(3)会議室

出席者:(敬省略)

生活科学系コンソーシアム構成学会より	計 21 名
国際服飾学会	片岡淳、佐々井啓
日本衣服学会	阿部栄子
一般社団法人 日本家政学会	大塚美智子、綾部園子
日本家庭科教育学会	志村結美
日本消費者教育学会	柿野成美
日本食品衛生学会	木村凡、加藤公子
日本食生活学会	青柳康夫、大越ひろ
一般社団法人 日本調理科学会	石井克枝(幹事)
服飾文化学会	長崎巖、大網美代子
一般社団法人 日本繊維製品消費科学会	大矢勝、小柴朋子
生活経済学会	上村協子
一般社団法人 日本保育学会	大豆生田(副会長)、波多野名奈
日本健康医学会	安藤達彦
一般社団法人 日本健康心理学会	山蔦圭輔

日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 11 名

小川宣子、塚原典子、香西みどり、薩本弥生、多屋淑子、工藤由貴子、倉持清美、
宮野道雄、鈴木恵美子、守隨香、片山倫子

欠席者:構成学会

日本食品科学工学会、日本健康科学学会

欠席者:日本学術会議 健康・生活科学委員会、家政学分科会委員 計 5 名

都築和代、藤原葉子、永富良一、熊谷日登美、重川純子

配布資料

資料1. 出席名簿

資料2. 生活科学系コンソーシアム第 27 回会議 議事録(案)

資料3. 平成 30 年度活動報告(案)

資料4. 平成 30 年度決算報告(案)(会計報告)

- 資料5. 2019 年度活動計画(案)
- 資料6. 運営委員一覧
- 資料7. 2019 年度予算(案)
- 資料8. アンケート依頼(マスタープラン)
- 資料9. アンケート依頼(教育内容)
- 資料 10. アンケート依頼(提言作成資料)
- 資料 11. 構成学会の会長及び連絡系の氏名および連絡先一覧
- 資料 12. 会費入金依頼

会の開催にあたり、日本栄養改善学会と日本栄養・食糧学会が 2018 年度をもつての退会が報告された。

議題

- (1)生活科学系コンソーシアム第 27 回会議議事録(案)の承認 (守随委員)資料 2
資料のとおり承認された。
- (2)平成 30 年度活動報告(案)について (塚原副会長)資料 3
資料をもとに説明がなされた。「4. 博士課程論文発表会・交流会、5. その他(後援名義使用)」の項目が抜けていたことに言及し、この内容はメールで添付資料としてつけられているので、後日、資料3を確認のため、送信することで、承認された。
- (3)平成 30 年度決算報告(案)について (鈴木委員)資料 4
資料をもとに会計担当鈴木委員から説明があった後に、片山監事から監査報告があった。原案どおり、承認された。
- (4)2019 年度活動計画(案)について (塚原副会長)資料 5
今年度の会議予定、本日の総会について述べられ、今年度で開催するシンポジウムおよび生活科学系博士課程論文発表会の計画が説明された。シンポジウムは12月21日に日本女子大学において開催し、同日第 29回生活科学系コンソーシアム会議を予定している。生活科学系博士課程論文発表会は、日程・会場ともに検討中であるため、9月の会議で諮りたい。なお、博士課程論文発表会当日は、第 30 回生活科学系コンソーシアム会議を行う予定である。
- (5)2019 年度予算(案)について (鈴木委員)資料 7
資料に沿って説明がなされ、基本的に昨年度の決算に倣って予算計画が立てられたことが述べられ、承認された。
- (6)運営委員について (小川会長)資料 6
毎年開催しているシンポジウムおよび生活科学系博士課程論文発表会は、各構成学会の持ち回りで運営委員を出していただき、準備・開催にあたることが説明され、承認された。

(7)その他

①マスタープランについて

(小川会長)資料 8

健康・生活科学委員会看護学分科会が中心となって、マスタープラン作成が進んでいることについて説明された。看護学分科会の作成であるため、中心となるキーワードは「care」であるが、これは病人、弱者に対する直接的なcareのみを意味しない。健康・生活科学委員会全体として常に追究している「人間が健康で豊かな生活を営むためにどうしたらよいか」と同義である。このことについての研究の基礎となる提案を行うので、採択の可否にかかわらず本コンソーシアムはかかわっていくつもりであることが述べられた。また、そのためのエビデンスを確認する必要があり、構成学会に蓄積されている「心身の健康にかかわる研究データ、もしくは研究計画」に関するアンケート調査を実施する旨が述べられ、6月28日(金)17:00までの回答を要請された。アンケート結果を踏まえ、改めて特定の構成学会に聞き取りをお願いするかもしれない。生活科学系コンソーシアムとして共に考え、検討し、健康で豊かな生活のための提案を作成したいと述べられた。

②アンケートの実施について

(小川会長)資料 9

家政学分野では、これまでも「生きる力」を高め、育むことを目指してきた。「生きる力」という文言には多くの意味が包含されている。小川会長より、指導要領等において当文言がいかなる文脈や意味で用いられてきたかを確認してほしいと要請された。

さらに、家政学分科会は従来、家庭科教育の視点から健康で豊かに生きる力の育成を追究してきたことが説明され、今後は家庭科教育に限定せず、構成学会が社会や教育界に対し発信している内容を協力して高め、生きる力を身につける小中高等学校の授業を提案していきたい旨が述べられた。

資料に沿った説明に加え、提示した調査用紙の回答方法についても説明され、6月28日(金)17:00までの回答が呼びかけられた。

構成学会の出席者より、「期限が既に間近であるが、学会の総意として回答すべきなのか？」との質問が出た。小川会長からは「期間が短いので総意までは求めない。調査結果に基づいて必要な聞き取りを改めて行う方針なので、特に項目3・4については学会の設立主旨に則った生きる力を育むための社会的発信内容を、会員のいずれかに回答してもらいたい」と回答された。

確認事項

(1)構成学会の会長及び連絡係の氏名及び連絡先

(阿部委員)資料 11

役職交代、連絡先変更等があれば早急にお知らせいただきたいと呼びかけられた。HPに掲載してあるフォーマットでも、阿部委員への直接のメールでもよいとのことであった。

- (2) 2019 年度会費について (鈴木委員) 資料 12
5 月 31 日 (金) までに、会費口数の増減を鈴木委員に知らせてほしいことが伝えられた。
また、資料中、誤記があり訂正された。「2. 構成学会連絡担当から 5 月 30 日までに」
を上記のとおり「5 月 31 日までに」とする。
- (3) 構成学会の 2019 年度行事予定について (阿部委員)
構成学会の今年度行事予定を「未定」との回答でもよいから送付してほしいこと、締め切り
は 6 月末であることが伝えられた。
- (4) 大型マスタープランについて
上記議題(6)①②に兼ねた。
- (5) その他
第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会家政学分科会からの活動報告
各WGより進捗状況が報告された。
- ・被服分野WG (多屋委員)
衣料管理士養成大学に実施したアンケート調査の結果に基づき、昨年シンポジウムを
開催した。引き続き養成教育について検討を重ねており、提言の完成を目指している。
 - ・免許更新WG (倉持委員)
家庭科には免許外教員が実際には多く存在している。それについて提言を行っていく
ことを検討している。
 - ・科研費WG (鈴木委員)
科研費申請の際のキーワードを引き続き検討している。
 - ・食分野WG (塚原副委員長)
昨年度、127 校および卒業生を対象にアンケート調査を実施した。管理栄養士の養成
について、引き続き検討している。
 - ・児童分野WG (守随委員)
5 月 5 日に大妻女子大学で開催された日本保育学会において、「子どもの豊かな保育
環境を考える—家政学の視点から—」を開催した。来場者も予想外に多く、活発にフロ
アも意見を寄せてくださった。保育学と児童学の接点、それぞれの独自性を対話して
いかれるとの感触を得た。
 - ・生涯学習WG (工藤委員)
一人ひとりの主体的なライフプランニングが必要な時代である。それができるようになる
ための知識・技術が未だ求められている。また、若者・子ども・大人は、それぞれのライ
フステージで課題を有している。このような背景のもと、生活する力を身につけるための
生涯学習のありようを検討できれば、と考えている。
 - ・住分野WG (宮野委員)
建築士の資格教育に関わる住居学専門教育のあり方について検討を行っている。

この後、構成学会からの出席者より、学会の取り組みについて発表された。

連絡事項

(小川会長)

学会行事等で生活科学系コンソーシアムの後援を希望する場合、もしくは国際学会で日本学術会議の後援を希望する場合はお申し出いただくことについて連絡がなされた。

次回会議日程:2019年9月24日(火)(未定)

場所:学術会議